

松本市教育研修センターだより

No.25 令和6年4月30日

学び手としての楽しさと「観」の深まりを実感できる研修を目指して

～ ごあいさつ ～ 松本市教育研修センター長 大久保和彦

先日、教育実習を控えた大学3年生の学生さんたちに、一コマの時間をいただき、「教師をめざす皆さんに伝えたいこと」としてお話をする機会がありました。その授業の中で『いい授業』の要件って何だろう？と問いかけた場面がありました。学生さんたちは、真剣に考え話し合いながら「自分からやりたくなってしまう授業」「みんなで話し合えること」「夢中になって取り組める授業」「できた！という実感があること」など、自分の経験を踏まえた考えを豊かに発表してくれました。学生の皆さんの瑞々しい感性に感動しながらそれらを聴き、その後、要件の一例として「問い＝必要感のある」「関わり＝協働性のある」「振り返り＝学びの実感のある」と、自分の考えを示させていただきました。

私がすべての話を終えた後、講座を聴講されていた大学の先生(教授)が学生さんたちに次のように問いかけました。

「皆さんの考えた『いい授業』の要件がとても興味深かった。ところで『いい授業』の反対は『わるい授業』。さらに別の評価軸として『うまい授業・下手な授業』というものもある。皆さんに聞いてみたい。『下手な授業だがいい授業』『悪い授業だがうまい授業』を比べた時、皆さんはどちらをより好ましいと考えるか？」

思いがけない問いかけに、「自分は『いい授業』『うまい授業』どちらを目指してきたのだろうか？」と自問する機会をいただきました。(いい授業、うまい授業のとらえ方は様々あると思いますが、あくまで私がこの時とらえた文脈では、とお考え下さい。)

「いい授業」の尺度はいわば「子ども目線」。学習者が頭と心を働かせ、友との関係を深めながら、この時間の学び＝成長を実感できるかどうかの評価軸です。一方で「うまい授業」の尺度は授業者目線。教師の意図に沿って授業が展開し、子どもが動く(学ぶ)かどうかの評価の対象となります。

そう考えると、自分はどちらかといえば「うまさ」にあこがれをもち、それを支える「技・知恵」をたくさん持っている教師になりたいと思ってきたのかもしれない、そして、学び(＝研修)においても、ノウハウや「技・知恵」を求め、それを学べるのが「いい研修」と考えてきた傾向があったかもしれない、と思い当たったのでした。

教師にとって、知識・技能は当然必要です。基本的なそれがないところでは、「いい授業」などは到底実現できないのは自明のことです。しかし、知識・技能の蓄積がそのまま教師としての熟達につながるわけではないことも、経験の中で思い知らされてきました。

知識・技能をいわゆる「いい授業」につなげるには、教師自身が学び手となって「いい授業」を体験し、学習者としての喜びを実感することが不可欠であり、それを通して「学ぶとは」「いい授業とは」といった「観」を耕していくことが大切だ、と今は感じています。

令和6年度がスタートし、今年度の松本市の研修も始まりました。「いい授業」の要件は「いい研修」のそれと重なると私たちは考えています。「コンテンツ」を伝えるだけでなく、「問いをもち」「対話を通して」「新たな価値(見方・考え方)に気づく」プロセスの中で、先生方が学習者としての楽しさと「観」の深まりを実感できる研修が、一つでも多く実現できることを目指してまいりたいと思います。

ちなみに、先ほどの大学の先生の問いかけに対し、学生さんたちは全員「下手な授業だがいい授業」の方に手を挙げました。うれしいプレゼントをもらった思いでした。

「松本市教職員研修計画」および諸文書フォームのダウンロードはこちらから



令和6年度の松本市の教職員研修がスタートしました！

～ 「子どもが主人公」 多様性・創造性・主体性を育むために ～

4月から松本市教育研修センター主催の教職員研修がスタートしました。4月には指定・希望研修を含め以下の8講座が実施され、247名もの先生方が参加され、熱心に研修に励んでおられました。

4/3 市費教員新規採用者合同研修会

4/5 松本市新任管理職研修

4/11 松本市新任転任教職員研修

4/15 まつもと講師塾

4/18 新任教務主任研修

4/24 自立支援教員研修会Ⅰ

4/23 岩瀬直樹先生と学ぶ「探究ゼミ」Ⅰ

4/30 達人に学ぶ！「子どもが主人公」の学級づくり

その中から、二つの講座の様子についてお知らせいたします。

まつもと講師塾(4月15日)

長野県発達障がい情報・支援センター副センター長でありコーディネーターの宮内かつら先生を講師にお招きし、「障がいのある子の理解と対応を学ぶ」をテーマにご講演と、先生方の語り合いの時間が設けられました。特別支援学級等にかかわる講師の先生方の日ごろの困り感を出し合い、宮内先生から適切なアドバイスをいただきながらこれからの学びについて考えました。教師の「～しなきゃ。」とか「～させる。」とかというがんばろうとすることを、少しがんばらないことも大事。子どもたちが何を望んでいるのか。ということ、マズローの欲求の五段階説を示しながら、具体的な子どもの姿を通して語られたことで、参加した先生方も普段にかかわる子どもをイメージしながらこれからの自身のあり方について熱心に語り合っていました。



【研修リフレクションシートより】

◆児童も自分(教師)も“がんばらせない”ことの大切さを教わることができました。4月の今だからこそ教員が肩の力を抜き、児童一人ひとりと向き合いながら“誰が何に困っているのか”を常に意識して支援していかなければいけないことを改めて感じる事ができてよかったです。

岩瀬先生と学ぶ探究ゼミ①(4月23日 教育文化センター)

軽井沢風越学園校長の岩瀬直樹先生と学ぶ探究ゼミがスタートしました。この研修は、ゼミ形式で年に5回行われます。第1回の探究ゼミでは、「お互いを知る」ことを大切に、岩瀬先生の自己紹介を聞いて、過去の自分を振り返ったり、今の思いを語ったりとコミュニケーションの時間をたっぷり取りました。後半は、風越のつくるえがく(図工の授業)の様子から教師のあり方・環境の構成について考えたり、『プロジェクトの学びでわたしをつくる』(風越学園の学びについて書かれた本)をテキストとした読書会をしたりしました。

【研修リフレクションシートより】

◆…これまでの常識にとらわれない探究的な視点を取り入れるにあたり、時に不安になったりすることもありましたが、岩瀬先生のご指導のもと参加者の先生方と確認できたことは大きな自信になりました。…

これから1年間、テキストで学んだり、教師自らが探究をしたり、風越学園に行って子どもたちの学びの姿から考えたりと、探究についてじっくり学んでいきます。

